

適性試験の現状

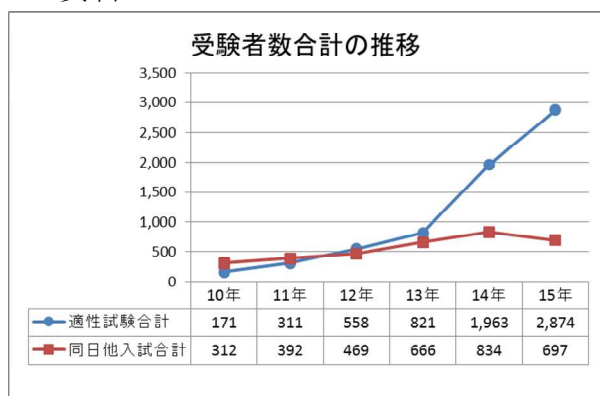
森上教育研究所私学アドバイザー 小泉壮一郎

2014年入試から、私立中学でも適性試験を実施する学校が急増しています。これは、私立適性試験を受験し、入学する生徒が増えていることが原因と思われます。受験者数が低迷している現状を打開するために適性試験を導入する学校も多いと思いますが、受験数が増えても入学しなければ私立適性試験を行う意義がありません。

私立中学でも適性試験を行っている学校は、2010年の時点でも5校程度は見られましたが、当時は公立中高一貫校を受験する生徒が練習のために受験するケースがほとんどではないかと考えられ、適性試験による入学者は少ないと思われていました。そもそも、公立中高一貫校と私立中高一貫校を志望する受験生は層が異なり、公立中高一貫校志望の受験生が私立を併願するケースはほとんどないとされていました。というのも、入試が全く異なるため、それぞれの入試に対応するための準備が必要となり、二度手間になるからです。

ところが、数年前から公立中高一貫校の併願校として私立の中堅校・中下位校を受験する生徒が増えてきました。多い学校では、入学した生徒の20%程度が公立中高一貫校を第一志望、というケースもあります。リーマンショック以降の受験者数減少で、私立中高一貫校の難易度が下がり、公立中高一貫校志望者でも私立中高一貫校に入学しやすくなったことが考えられます。

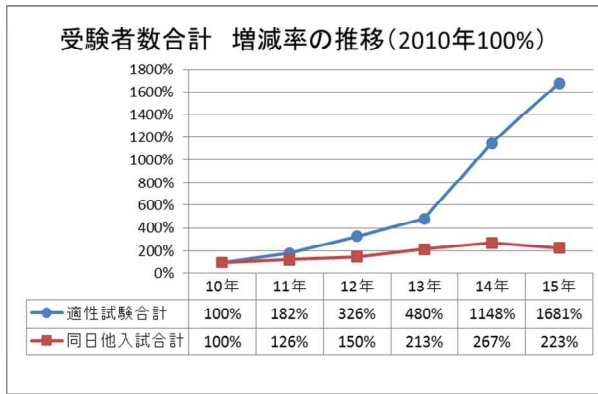
<資料1>



資料1は、2010年～2015年の私立適性試験の受験者数と適性試験を行った学校で同日・同時に行った一般入試受験者数の推移をグラフにしたものです。受験者数は、私立適性試験を行っている全部の学校を合計した数値なので、私立適性試験を導入した学校が増加すれば、増加することになります。

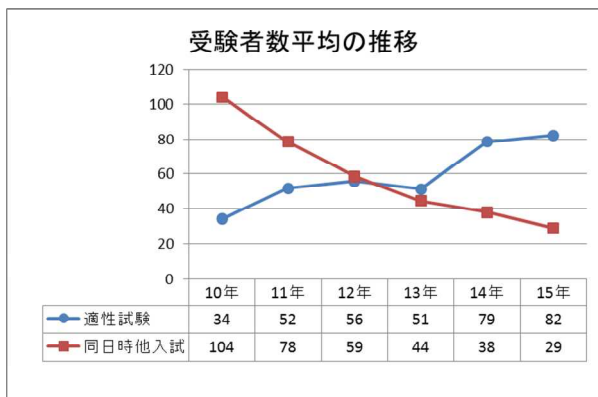
2010年の受験者数は171人でしたが、2015年には2,874人にもなり、私立適性試験の需要があることは明確です。適性試験と同日・同時に行っている「同日他入試」がある場合は、比較のため集計しましたが、適性試験の受験者数に比べると増加率は低いようです。

<資料 2 >



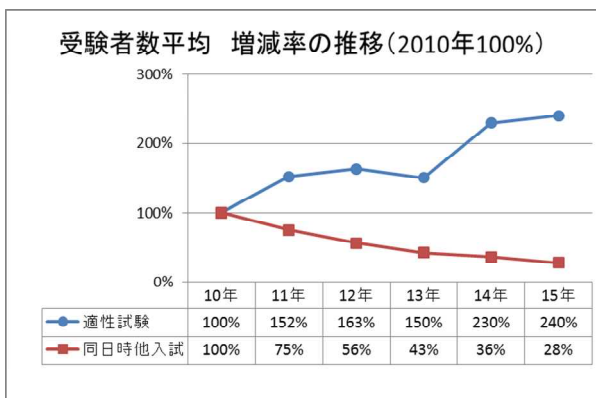
資料 2 は、2010 年を 100% とした 2010 年～2015 年の私立適性試験と同日他入試の受験者数推移をグラフにしたものです。私立適性試験の受験者数は順調に伸び続け、2015 年に 2010 年対比で 1681% となりました。また、同日他入試も 2015 年入試で 223% と増加しましたが、私立の適性試験を採用している学校が増えたためと思われます。

<資料 3 >



資料 3 は、2010 年～2015 年の一入試当りの私立適性試験と同日他入試の受験者数の平均推移をグラフにしたものです。適性試験を入試に採用している私立中学校が急激に増加しているため、一校当りの受験者数で見する必要があります。それでも適性試験の受験者数は増加していますが、同日他入試の受験者数は減少しています。

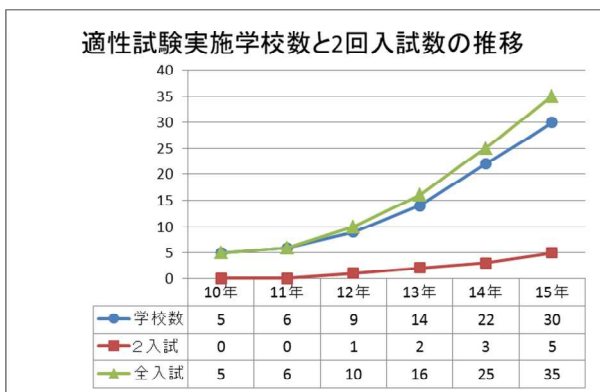
<資料 4 >



資料 4 は、2010 年を 100% とした、2010 年～2015 年の一入試当りの私立適性試験と同日他入試の受験者数平均の推移をグラフにしたものです。一入試当りの受験者数平均でも、適性試験は順調に伸び続け、2015 年には 2010 年対比で 240% となりました。

同日入試は、28% で、大幅に減少しています。一般の入試を受験する生徒と適性試験を受験する生徒は異なるので、適性試験が一般入試に影響を与えているとは思えませんが、同日入試は、大幅な減少となったのも事実です。最も大きな原因として、近年、規模の小さな学校が私立適性試験を導入していることで平均が下がっていることが考えられます。

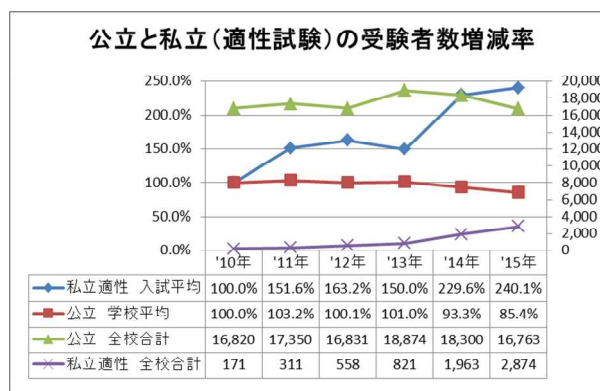
<資料5>



資料5は、私立適性試験を実施している学校数と同じ学校が複数の入試で実施している学校数をグラフにしたものです。学校数では、適性試験を行っている学校は、2014年・2015年で急増していることがわかります。適性試験の入試を2回行っている学校は、2015年では5校と多くなっています。このように、適性試験を採用する学校が増えているのは、私立の適性試験が

公立中高一貫校を受験するための練習受験というだけでなく、入学を前提として適性試験で私学を受験する受験生が増えている可能性が高いと思われます。

<資料6>



資料6は、公立と私立(適性試験)の受験者数増減率と受験者数をグラフにしたものです。私立適性試験の平均受験者数「私立適性 入試平均」は、2013年で一度減少し、2014年で急増しています。また、私立適性試験の受験者数「私立適性 全校合計」は、2014年・2015年で急増しています。

2015年は、「私立適性 全校合計」が増えた割に「私立適性 入試平均」は増えなかったことがわかります。また、公立中高一貫校の1校当りの受験者数平均「公立 学校平均」は2010年～2013年では、ほぼ横ばいでしたが、2014年以降は減少傾向が見られます。「私立適性 入試平均」と「公立 学校平均」を比較すると、私立の適性試験の受験者数は増加傾向で、公立中高一貫校の受験者数平均は横ばいから、2014年以降に減少傾向であることがわかります。2014年以降、公立の学校当りの受験者数が減少傾向となり、一入試当りの私立適性試験の受験者数が急増しているのは偶然とは思えません。

グラフの傾向から、今後、私立適性試験を実施する学校数も私立適性試験の受験者数も増加すると予想できます。